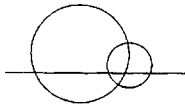


〈講演〉



テーマ：アンパンマンの正義

作家 やなせたかし

【司会】 ありがとうございます。では講演会第1部といたしまして、やなせたかし先生に「アンパンマンの正義」という題でお話しいたします。やなせ先生のプロフィールにつきましては、皆様のお手元にございます資料の中に「講師略歴」という印刷物がございますので、詳しくはそちらをご覧くださいと思いますが、先生は世代を超えて多くの方に広く知られる「アンパンマン」の作者でいらっしゃいます。私事で恐縮ですが2001年に韓国のソウルに行きました時、この「アンパンマン」が地元のテレビで韓国語の吹き替えで放送されていたことが印象に残りました。先生のお父様は先ほど藤田記念センター長のご紹介がございましたように、東亜同文書院の13期生として、大正時代の初期に入学されております。その辺りも含めましてさまざまなお話を伺うことができるかと思えます。では早速やなせ先生にご講演いただきます。やなせ先生よろしく願いいたします。

【やなせ】 「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ！ 今を生きることで 熱いところ燃える だから君はとぶんだ ほほえんで そうだうれいんだ 生きるよろこび たとえ胸の傷がいたんでも ああアンパンマン やさしい君は いけ！ みんなの夢まもるため なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなん

て そんなのはいやだ！ 忘れないで夢を だから君はいくんだ どこまでも そうだらうれしいんだ 生きるよろこび たとえ胸の傷がいたんでも ああアンパンマン やさしい君は いけ！ みんなの夢まもるため

私はやなせたかしです。アンパンマンの作者です。福岡の皆さんこんにちは。これから始まるお話はどんな話になるのかは、私にもさっぱり分かりませんが、とにかくボツボツ始めましょうか。それじゃ今から行きますけれども」

今日は東亜同文書院卒業の方がたくさんいらっしゃいますね。私の父親は東亜同文書院第13期卒業です。そして日本郵船にほんの少し勤めて、あと講談社で「雄弁」という雑誌の編集長をやって、そこから朝日新聞に入って、特派員として上海へ。そのあとアモイで32歳で亡くなりました。私がちょうど5歳の時。さて皆さんは今日ここへいらした。何かの縁でいらした。私と皆さんに何かの縁があったということは、実はこの講演会も何度も頼まれたんですが、いつもだめなんです。私病氣ばかりしている。今もだから病氣していますけれども、いつもお話があった時入院中であったりして来られなかった。この福岡だけが何とか間に合ったんだけど、福岡のお話が来た時も、もしまた体調を崩したらいけませんからと言ったんですけれども、何とかギリギリで来られた。これはだから1つの縁ですね。

実は昨日、父親が残した文章を私もらったん



です。読んでみるとその最初に書いてあるのは、「我々は死ぬことは割合と分かる。今死にそうになってるとか病気になるとか、あるいは自分で自殺しようとか、そういうことは分かるんだけど、生まれるなんてことは分からない。つまり自分はこの国に生まれ、あるいはこの町に生まれ、あるいは黄色人種として生まれるというのは自分では考えられない。つまり何らかの宿命によって自分は日本に生まれ、ある町で生まれ、ある家庭に生まれる。だから非常に金持ちの家に生まれることもあれば、貧しい家に生まれることもある。しかしそれは本人が望んだことじゃない。何も知らずとにかくその運命のもとに生まれる」と書いてあった。

実にその通りだと思うんですが、だから皆さんとお会いしたことも決して偶然ではない。ある種の宿命の糸に操られてると僕は思う。東亜同文書院というのは上海にあって、卒業する時は必ず卒業旅行というのをやるんです。支那全土をあっちこっち分かれて回るわけ。私は父親（柳瀬清と言います）が残した本を持ってありますけれども、父は浙江江西班。中国大陸の東海岸を、上海を出発して寧波からずっと温州ほうへ向かって旅行しているんです。ところがここからがちょっと不思議なんです。私は今90歳目前ですから兵隊に行っております。九州小倉部隊に入りまして福州に行ったんです。なぜ福州へ行ったかと言うと、大本営は台湾にアメリカ軍が来ると思ったんですね。そのためにはまず対岸の福州を攻めるだろうと。ですから福州の沿岸も守らなくちゃいけないというので我々は福州へやられた。そこにいたんだけど沖縄へ行ってしまったので、我々は飛ばされてしまって戦争はせず、そこから上海へ帰っていくんですけど、これが不思議なんです。なぜかと言うと中国大陸の東海岸をちょうど父親が卒業旅行で旅行した道とほとんど同じなんです。浙江省を通過して行ってるんですね。

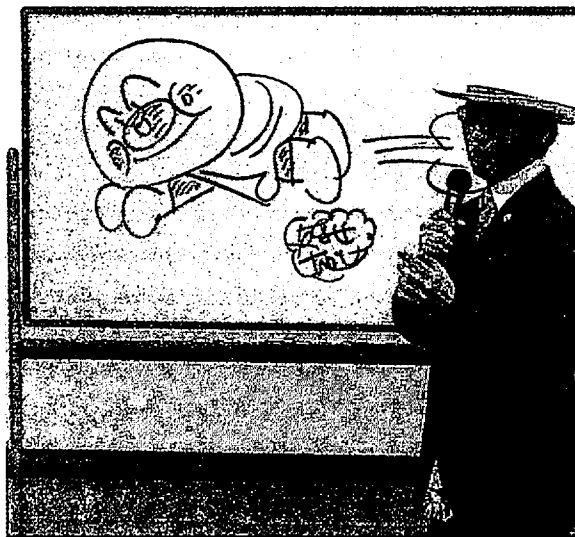
そうして僕は上海で終戦になるんですけど、上

海に1か月以上いて、僕はその時父親が「たかし、これがお父さんの通った道だ。お前もそれを見てくれ」と言われたような気がちょっとしたんです。なぜ俺は浙江省を通過して行ったのか。どうも父親に呼ばれたという気がするんだよね。上海にしばらくいて、そのあと戦後にもまた上海に行くことになったんです。なんか父親の意思と言うか、人間の中には不思議な部分があるというのを考えたことがあるんです。私の名前は嵩（たかし）と言います。中国にいらした方は分かりますが洛陽の近くに嵩山という山がある。少林寺拳法の発祥地です。そして北京に行けば嵩山書房という本屋がある。支那五大名山の1つである有名な山の名前を私に付けた。

ですから北京に行ったのも、上海にいたのも、偶然浙江省を通過したのも、何となく父親に呼ばれたという感じがする。そしてなぜ私が絵を描いたり詩を書いたりするようになったかと言うと、父親の残した中に「自分はこれからいろんな仕事をしていこう」と。最後は朝日新聞の記者をやっていたんですが、やりたいことというのは、自分の本を出したい。それから絵を描いていきたい。詩も書いていきたい。これは自分の一生の仕事として、どんなことがあっても続けていきたいと書いてあった。私はこのあいだ国会図書館で自分の本はどのくらいあるかと調べてみたんです。約2,000冊あった。そうすると父親が本を絶対書きたいといったのはいくらかできたかなと思う。でも父親の書きたかった本は私のような子供相手のものじゃなかった。詩の雑誌を編集してるということも、あるいは父親がこれをやりたかったんじゃないかなと。それから絵を描くのも、父親の描いたような絵じゃなくて実は漫画だったけれども、それでもやっぱりその仕事に入ったというのは何か父親の意思が働いてるような気がする。だから時々「お父さん、これで良かったかなあ」と思う時がある。

私の弟は千尋と言います。私には山の名前を付

けたので、「千尋の海」ということで千尋にしたんでしょうけど、海軍特攻隊に入って、22歳でフィリピンのバーシ沖で戦死したんです。千尋の海の底へ沈んでしまった。弟の中学生時代の写真を見ると父親にそっくりなの。どっちが弟なのか分からないぐらい似ている。もしかすると父親はちょっと寂しくて弟を呼んだのかなあという気もするんです。人間というのはある部分ちょっと不思議と言うか、何かの宿命の糸に操られているという気がします。



今日の題は「アンパンマンの正義」になってますけれども、アンパンマンを描き始めたのは「正義とはいったい何か」ということなんです。僕は兵隊に行きました。中国へ行きました。今言ったように福州で敵前上陸したら何の抵抗もなかった。向こうの人に会って「日本と中国は戦争してる。でも本当は仲良くしなくちゃいけないんだよ」。連中は全然知らない。中国というのはそういうところなんだね。あれは上海でやってるんで、我々は無関係だと。このあいだ天安門事件がありましたね。天安門事件の時僕は北京にいたんです。撃ちながら進んでくるんです。ちょっと離れて郊外へ行くと天安門事件を誰も知らない。日本人はみんな知ってるのに知らないんだね。その頃書の勉強をするために留学していたやつに聞いてみたら、やっぱり全然知らないわけです。「え、

天安門事件？そんなのありましたか」。要するに国の広さと言うか、我々と違うんですね。福州へ行っても全然戦争なんか関係ないっていう顔なんだね。

そうして僕等はずいぶん農民と仲良くしてたんだけど、戦争が終わってみると日本軍は悪魔の軍隊で悪いことばかりしてたと言う。そんなことはない。我々は何も悪いことはしませんでした。うちの師団長からはたとえば「畑の中へ陣地を作ったら、必ずその畑は元の通りにちゃんと直しなさい。そして絶対民衆のものを盗んではいけない」というふうに言われた。「我々は中国の民衆を助けるために来てるんだから、そういうことは絶対しちゃいけない」と。僕等はだから紙芝居を作って回ったり、いろんなことをやってた。でも終わってみれば「悪魔」。そうすると「正義とはいったい何か」ということになる。現在でもアメリカとアラブのフセインが戦うとする。アメリカは「正義の戦いでフセインをやっつける」と言うんだけど、フセインの側から言わせれば「アメリカが悪い」。ブッシュのやったことは間違いだと現在では言われてますよね。そうすると正義というのは非常にあやふやで、どっちが正義かよく分からない。

兵隊に行った時に一番辛かったことは、泥の中をはいずり回ったり、撃たれたこともあるし、いろいろありますけど、迫撃砲というのは恐くてね、いきなり側にドカンと落ちるので本当に恐かった。それでも一番辛かったのは、食べられないということなんだね。飢えが一番辛いです。ですからその時、正義というのはまず最初に飢えた人を助けなくちゃいけないと思ったんだよね。正義の味方はまず飢えた人を助ける。食べられない人にもっと行儀よくしろとかいろんなことを言っても聞きません。まず何とか食べられるということが一番肝心なんだね。ですからお腹を空かした子供を助けるスーパーマンを作ろうと思って作ったのがアンパンマンです。

ところがアンパンマンを作ったら評判が悪くてね。「やなせさん何ですか。あなたは相当良いお話を描いてるのに、今度のはアンパンの顔をしたやつが飛んでって助けるとか、そんなくだらない話はやめてください。今回限り描かないでください」と言われたんです。すごい悪口を言われて散々でした。ですからその間にいろんな本を描いたんですけれども。ところがアンパンマンを最初に描いてから5年ぐらいしたら、ちょっと不思議な現象が起きてきた。僕がうちの側のカメラ屋にDPEを出しに行ったら、カメラ屋の親父が「先生はアンパンマンという絵本を描いてる?」「描いてますよ」「あれにうちの坊主が夢中でね、何回も読んでくれと言うので、もっと次のやつを描いてください」と言うんです。へえそうなんだ、あの本を読んでも人もいるんだなと思った。

僕はその頃よく幼稚園なんかに行って話をしたんですけれども、幼稚園というのは僕が行ってもすごく冷淡なんですよ。何でもかと言うと、フレール館という出版社で本を出してるんですけど、本というのは安いんです。そこがやってるのはだいたい300円ぐらいで、マージンがだいたい80%。つまり20%の利益しかない。300円の中の20%だからごく僅かなんです。あんまり売ろうとしてないから。ところが片一方の遊具とかそういうのは1個10万円とか50万円とか。滑り台なんか入れると100万円ぐらいかかる。そしてマージンは50%。だからそういうのを売りたいがるんですよ。本なんか売っても儲からないというのですごい冷淡なんです。

ところが5年ぐらいすると、僕が幼稚園へ行くと先生が「あ、やなせ先生が来た!」と飛び出して来る。急に変わった。「園長室へどうぞ」。コーヒーが出たりお菓子が出たり。「どうぞどうぞ」と。何でこんなに変わったんだ、昨日まで冷淡だったのに。そのうちに園長先生が「いや、うちの園はみんな子供がアンパンマンに夢中で、あの本をみんな読む。うちの園はアンパンマンだらけです。

先生ぜひうちのトイレを見てください」。トイレなんか見たくない。そのトイレが園のちょっと離れたところにある。だから子供はトイレに行くのが怖い。そのトイレの壁にアンパンマンを描いたら、子供が割と喜んでトイレに行くようになった。

そこで突然出版社も態度が変わるんです。今までは「やなせさん、あんなくくだらない本は描かないでください」と言うんで止めてたのが、「先生、あれ描いてください」。急に態度が変わっちゃって、1年に25冊とか描くようになる。なぜなのか。本はマージンが僅かで、1冊売ったってたかが知れてますが、本を買うことによってあとの遊具も買うようになるんです。つまり本そのものではさして儲からないんだけど、アンパンマンが非常に売れるようになったんですね。そういうことでだんだん人気が出てきてアンパンマンが自分の代表作になったんですけれども、認めたのは子供ですよ。2歳か3歳の子供なんです。まあそういうことなんですね。面白くないですか。あとほんのちょっと話をします。

アンパンマンは始まってから40年、映像化されてから20年になります。そのうちにテレビ会社がやってきた。アンパンマンをテレビアニメにしたいと。各社全部来ましたが、上層部が「こんなお話は現代の子供には受けない」というので全部バツになった。日本テレビは武井さんという人がやってきて「アンパンマンをやりたい」。一方でアニメの会社GMSというのがやってきて「アンパンマンをアニメーションにしたい」。ですから僕は「これはだめです、各社で断られてる」「でもキャラクターが面白いから」というので企画に出したんです。またバツ。その翌年もバツ。3年やったんですけど全部バツです。NHKも来たけどバツでした。全部だめだったんだけど日本テレビの武井さんは非常に熱心で、4年目に遂に会社が折れて、「武井君、そんなに君が熱心に言うならやってもいい。しかしだめだった場合は責任を取らせる。会社は1銭も出さない。君が資金を都

合してきなさい。うちの会社で一番視聴率が悪くて、何をやっても2%しかいかないという魔の時間があるから、その時間ならやっていい。スポンサーは付かない。サスプロだから」ということでやっと許可が出た。そうしたら武井君はビデオの会社へ行きまして、「このビデオの権利は全部貴社にあげるから500万円貸してください」と言って500万借りてきました。日本テレビの午後5時という、何をやっても2%しかいかないこの時間帯にはNHKの「おかあさんといっしょ」の再放送がありまして、これが一番強い。何をやってもかなわない。その時間帯でした。

そして始まることになったんですが、これが昭和の終わり。「やなせさん、せっかく始めますから後楽園でショーをやって盛り上げましょう」と言ったら、昭和天皇が亡くなられた。それで一切の音曲禁止、宣伝その他一切禁止ということで、宣伝も何もできない。調布のスタジオへ集まるとスタッフ一同みんなうつむいてるんです。「やなせさん、宣伝は一切できないし時間帯が一番悪い時間で、いくらうまくいっても半年以上は続かない。これから始めますけれども期待はしないでください。このアニメーションは半年で終わります」「そうですか、せめて1年はやりたいですね」と言って、宣伝も何もしないで、国民がみんな暗い気分になってるところでアンパンマンは始まったんです。

ところがこのあとがすごい。明けて平成元年になりました。うちに電話がかかってきたんです。「もしもしやなせさんですか。こちらは文化庁です」文化庁？何なんだこれは。「えーっと、やなせさんのアンパンマンが優秀番組賞に選ばれました。表彰式に出席していただきます」えーっ、ほんとかなと思ったんですけど、ほんとだったんですよね。虎ノ門ホールというところで表彰式がありまして、もちろん日本テレビの幹部も来ました。幹部がみんな「やなせさん、まさかこんなことになるとは思いませんでした」と言ってるわけ。

そして何と賞金が500万円。ちょうど借金した額と同じなんです。最初から7%。5時という悪い時間帯なので、7%ならいいほうなんです。現在もアンパンマンは決していい時間帯ではありません。九州も悪いでしょう。朝やってるんじゃない？今関東地区が金曜日の4時半です。それから東北がだいたい朝の5時です。新潟とかあの辺りは朝の5時です。大阪が6時でしたか。九州は朝でしょう、やっぱり。確か朝の6時か6時半ぐらいの変な時間です。他の「ドラえもん」「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」なんかはみんな日曜日とか土曜日の6時とか7時の一番いい時間帯です。朝の5時にやって人気番組になったものはないです。世界中探してもありません。それなのに今グッズとビデオの売上はトップなんです。この市場を超えるものはないんです。私の生まれたところは高知県。高知県ではアンパンマンやってなかった。そして始まったらまた朝の5時なんです。何で朝の5時になるか。これはちゃんと理由がある。今言ったのはサスプロ、局の持ってる時間で始まったんです。だいたいゴールデンアワーの良い時間帯は中央局から送られてくるんですね。ところが地方局の持ってる時間は朝の5時とか夕方の4時から6時ぐらいで、そこの時間しかできないんです。

現在の地方局はその時間帯にだいたいワイドショーをやっています。だから朝しか空いてない。そのためにアンパンマンは朝の5時に追いやられてしまった。ところがいくら朝の5時に追いやられても、番組の内容が良ければちゃんと人気者になる。現在のテレビの質が悪いとかいろいろ言われてるんだけど、質が良ければどんな悪い時間帯にあってもちゃんとヒットする。今まで朝の5時にやって人気者になった番組ってあるか？ありません。では高知はどうなったか。高知に行って、「俺の故郷なのに何でやらないんだ」「スポンサーが付きませぬので」「スポンサーが付かない？それなら俺がスポンサーをやってやる」。僕が1年間スポンサーに付いてやったんです。1年経った

ら別のスポンサーが付いて、現在は夕方4時から5時ぐらいにやっています。でも作者がスポンサーに付いたのは世界中で俺が初めてじゃないかな。ですからこれはすごい珍しいニュースだと思ったけど、新聞社は全然取り上げないんだよね。別に何とも思わないらしくてニュースには取り上げられませんでしたが、1年間自分でやった。それはちょっと悪いので、アンパンマンミュージアムというのがあるのでアンパンマンミュージアムのCMを、ほんとはお金を出してやってたんです。それでやっ和高知でもできるようになったんですけど、冷淡と言うか何と言うか。でもこれはしょうがない。なぜかと言うとアンパンマンというのは苦難に耐えてやっていく運命だから。でも皆さんも分かるように、質が良ければどんな劣悪な条件でも大衆は認めるんです。

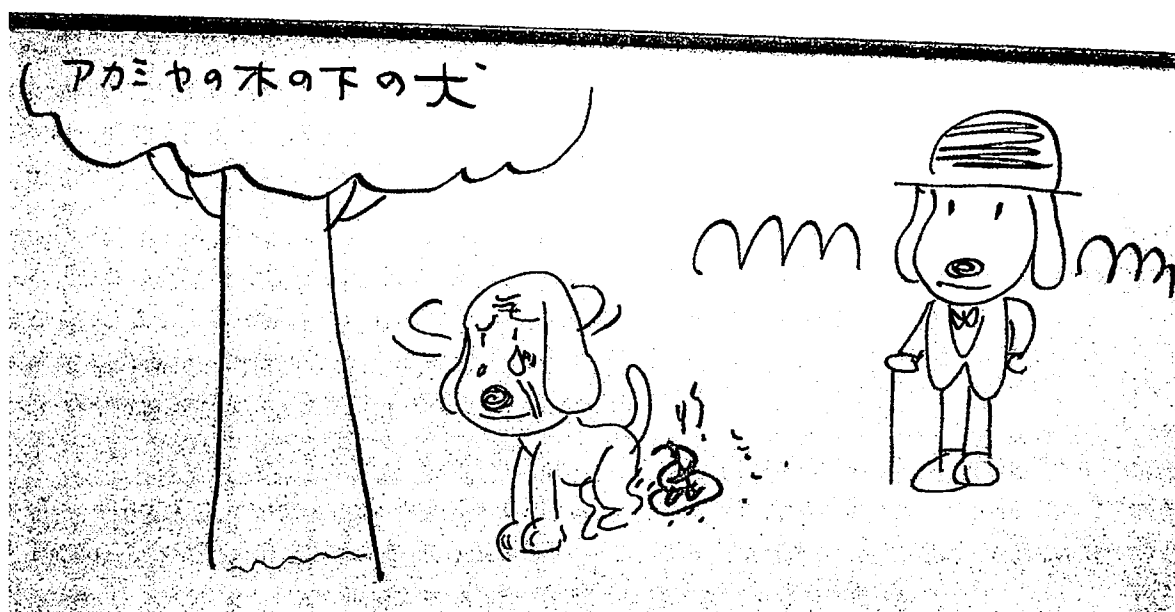
さて今日は大人ばかりだからこれを消しても別に怒られない。子供はこの辺を消すと怒られちゃう。アンパンマンを消したと言って。消してる間にちょっと今の心境を歌ってきましょうかね。

「人生いつしかたそがれて、夕陽はすでに落ちたけど、僅かに残る薄明かり、はかなく淡いベージュ色。ああ東の間に時は過ぎる。89年夢みたい。

俺は米寿プラスワン。明日のことなど分からない。時の列車に乗せられて、夢幻の歳月は、今では淡いベージュ色。ああ東の間に時は過ぎる。89年夢みたい。俺は米寿プラスワン」

去年88歳の米寿のお祝いの時に作った歌なので今年は米寿プラスワンです。それでは今度はアンパンマンとはいづらか無関係なんだけれども、ちょっと1つ歌ってみます。「アカシヤの木の下の犬」というタイトルです。泣けますねえ。

「青いアカシヤの木の下で犬が1匹しゃがんでいる。悲しそうに顔をしかめて何かをじっと我慢している。青いアカシヤの木の下で犬は何をしているのか。青いアカシヤの木の下で犬はウンコをしているんだ。ああ、僕はなぜこんなところでウンコなんかするんだ。しかし仕方がないんだ。僕には専用のトイレなんかないんだ。まつげの先に何かある。そいつは僕の涙か。落っこちそうに震えてる、小さな小さなひとしずく。どうして出たのか知らないが、誰にも見えない涙なら流れるままにしておこう。小さな小さなひとしずく。青いアカシヤの木の下で犬はやっとそれが終わって、後足で懸命に砂をかけるが、砂は全く見当違いの方向に…。青いアカシヤの木の下から犬は急いで



逃げだした。自分の罪から逃れるように。犯した罪から逃れるように。そして生まれた時からただの1度もウンコなんかしたことはないような顔をして、すまして群集の中へ紛れ込んでいった。おしまい」

これはだから犬の話なんだけれども犬じゃない。我々なんです。我々はみんな欠点がある。みんなすました顔をしてやってるんだけど、ちょっと人には言えないこともある。必ずある。ないとすればそれは非常に気持ち悪い人です。必ず欠点がある。デコボコになる。その欠点をお互いに許し合いながら、お互いに補いながら生きていくというのが我々の社会です。そうなんです。一方中には真面目な人がいるんです。欠点は許さないという人が。自分は正しいと。ところがあなたの欠点はここだと正確に指摘した場合、言われたやつは「ありがとうございました」と言うかと言うと「何だこの野郎、てめえだってあるじゃないか」と喧嘩になる。そういうことなんだよね。私達はだからみんなデコボコ。いろいろある。こういう詩を書いているから詩人からばかにされてるんです。「やなせさんのは詩じゃない」。詩じゃなくてけっこう。何かしら人の心を打てばそれでいい。詩じゃなくたってかまわない。次へ行く前にもう1つだけ。やたらに歌うので嫌がられてるんですけど。

「人生なんて夢だけど、夢の中にも夢がある。ノスタルじいさん、ノスタルジイ。ハンテンボクの木の下で、肩震わせて泣いていた、いじらしかったあの人の、面影残る片えくぼ」。けれども今ではまあおばあちゃんになっちゃって、情けねえ。「ああ、しょうがない。時の流れは帰らない。ああ、ああ～。血潮が熱いあの頃は若さの他は何も無い。ノスタルじいさん、ノスタルジイ。桜並木の夕まぐれ、愛する人と巡り合い、肩寄せ合ってときめいて、年上だったあの人に手ほどきされたキスの味」。ああ、腰が抜けてしまったんだ、情けねえ。「ああ、しょうがない。時の流れは帰らない。あ

あ、ああ～」。人生は短い。昨日の少年少女も明日はじいさんばあさんだ。それならば楽しく生きよう。全ての人に優しくして、終わりは煙になって消えていくんだ。みんな同じなんだねえ。さみしいなあ。「過ぎてしまえばみんな夢。手ひどく愛に傷ついて。ノスタルじいさん、ノスタルジイ。涙こぼした若い日よ。ああ、少年は老い易く、緑の若葉色あせて。たそがれ迫る人生に、赤い夕陽が染みてくるんだ！」薄くなった頭め、情けねえ。「ああ、しょうがない。時の流れは帰らない。ああ、ああ～」。ノスタルじいさん、ノスタルジイ。情けねえ。

昔の歌手が年を取ってくる。僕の知ってるボニー・ジャックスはみんな60を過ぎちゃってじいさんになった。だから「年取ったら年取った歌を歌ったらどうだ、作ってやるから」と、ノスタルじいさんというのを作ったけど、誰も歌わない。やっぱり何とか若い歌を歌ってるわけ。なぜでしょうね。しょうがないから自分で歌ってる。年取った女性の歌手にも、年取ったような歌を作って「これを歌ったらどうだ」。誰も歌わないですね。やっぱり若い歌を歌いたがる。その気持ちも分かるんだけどね、年取ったら年取った歌を歌ったらどうなんだと私は思いますね。誰も歌わないから自分で歌ってるんだけど、割と面白かったでしょう。図に乗ってもう1曲。今日は女性の方も少しいるので、女性のために。

「おぼろげな記憶の中で薄れていく少女の時代。ありふれた幸せ夢見ていた、ありふれた私。ありふれたありふれたありふれた恋して、ありふれたおばさんになるのはまっぴらごめんなさいだわ。ありふれないでずば抜けた小粋な女、謎めいた微笑みホホホホホ、リラの並木道歩いていけば男がバタバタ倒れる、そんな女になりたいの私。無理かしら無理かしら無理だよ無理だよ。それでもやっぱりありふれた私は夢見る。ありふれたありふれたありふれた人生。ありふれた慎ましい生活。まっぴらごめんなさいだわ。ありふれな

いで白い肌、バラの入れ墨、謎めいた微笑みホホホ、すれ違いざまに流し目すれば男がバタバタ倒れる、そんな女になりたいの私。無理かしら無理かしら無理だよね無理だよね。それでもやっぱりありふれた私は夢見る。ありふれたありふれたありふれた思い出。ありふれた慎ましい生活。まっぴらごめんなさいだわ。ありふれないで飛切りの素敵なおドレス、謎めいた微笑みホホホホホ、一目見た人は私に夢中、男がバタバタ倒れる、そんな女になりたいの私。無理かしら無理かしら無理だよね無理だよね。それでもやっぱりありふれた私は夢見る。それでもやっぱりありふれた私は夢見る」

こんな詩を書いてていいのかな。うちの父親は詩を一生書いてくと言ったんだけど、その息子がこういうくだらない詩を書いている。どうなんですかねえ、お父さん、これで良かったのかなあ。ちょっと情けないような気もするんだけど。僕は最近テレビの歌謡番組なんか見ても、1つもない歌がないんだね。胸にジンとこないんです。なんでああいうくだらない歌がはやるのか。中には歌詞が全然分からないのがある。聞くんだけど何を言ってるのかさっぱり分からない。私が年取ってしまったのかなあ。全然意味不明というのがあって、自分の歌ってる歌のほうがはるかに面白い。しょうがないので自分で歌って自分でなぐさめているということなんですけれども。

さっき言いましたように東亜同文書院を出たうちの父親というのは、詩を書くこと、絵を描くこと、それから本を出すこと、この3つは生涯やっていきたいと言いながら、できなかった。32歳で亡くなってしまった。だからうちの柳瀬家というのは男子短命の家系なんです。だいたい50代でみんな死んでます。私だけが90まで生きてるというのは何となく父親に守られてるという気がするんです。だから父親がやり残したことを「お前やってくれ」と言われてるような気がするわけ。残された絵とかそういうのは少ないんですけど、

いくら頑張っても私は父親ほどうまく描けない。どうしても父親に及ばないですね。文章も確かに古風なんですけど父親のほうがうまいんですね。どうしてもかなわない。でもまあ凡才は凡才なりに90過ぎても一生懸命やって、少しでも進歩していけばいいかなと思っています。でももう体がだめになっちゃって、あっちこっち悪いんだよね。病院にしょっちゅう行ってますが医者に「まだ生きてるのか。なんで死なないんだ」と不思議がられています。この間は白血球が19,000で、「あれ？やなせさん、よく立ってますね。もうこれぐらいだと立ってられないはずだけど」。何か割と平気なんだよね。私は体の中の臓器がほとんど半分しかない。膵臓も切ってますし、腎臓は左半分ありません。脾臓、胆嚢がありません。目が見えにくくなって、耳も非常に悪くなって、しょっちゅう病気をします。それでも生きてる限りは一生懸命やって、そして何をするか。人を楽しませること。今日来た人も、なるべく楽しんで笑っていただきたい。そういうふうにする。人を喜ばせることが自分の喜び。この人生の中で何が一番面白いかというと、人が喜ぶことなんです。だから絵を描いたってただ絵を描いてるんじゃ面白くない。その絵を見た人が「きれい」とか「かわいい」とかいろいろ言うてくれることが嬉しい。歌を歌えば、聞いた人が「面白い」と笑ってくださればそれでいい。歌がうまいなあなんて感心してもらう必要はない。面白いけど何となく胸に響く部分があれば、それが私の喜びなんです。ですからこれからあとの人生、もう少ししか生きてないと思えますけれども、その全部を費やして、人を喜ばせることをやりたいと思ってるわけ。ですから病院に慰問に行ったり、地震のあった地方へ行って子供達を慰問したりしてますけど、大げさにはやらない。自分が喜ぶためにやってるんで、人が喜ぶと僕も喜ぶわけです。つまり喜ばせごっこで生きている。ところが中には喜ばせごっこじゃなくて、人を嫌がらせて喜ぶ人もいます。この頃じゃ、「誰

でもいいから殺したかった」とか、とんでもないやつがいるんだね。なんでこうなっちゃったのか。世の中どうもおかしいと思う。僕はしょうがない、もうあと僅かしか生きられませんけど、生きてる限りはやっぱり人を喜ばせたいと思ってやってるわけ。

このあと小倉市で僕の展覧会をやります。同時に3か所ぐらいでやってますが、これもだから「すごい良い絵だなあ」なんて思わなくていい。子供と大人と一緒に面白がるというか、楽しんでくれればいいんでね、何も大芸術をやろうとか、そういう気持ちは全くない。なるべく人を喜ばせたい。楽しませたい。それも人に分かり易くやりたいと思ってる。これは僕は政治だってそうだと思う。今の政治家は言ってることがよく分からないんだよね。これが一番困る。皆さんはNHKで選挙演説をよく聞くでしょうけど、ほとんどが何を言ってるのかよく分からないんだよね。そして信用できない。あれは困ったもんです。まず表現力がない。自分の思ってることを相手に伝えることができない。それが非常に困ったことだと思う。だから子供の時代から英語を教えとか言ってるけど、その前に自分の思ってることを相手にちゃんと伝えることができるようにならなくちゃだめだと思う。中国は今現在その教育

は少し進んでるんだね。中国へ行った人はみんなびっくりしてる。このあいだ石原慎太郎がオリンピックに行っ、何にも驚かなかったんだけど、案内してくれた大学生が非常に明晰な言葉できっちりと話してくれるのには非常に感心したと。日本の今の若い学生は言葉が乱れてしまってる。ほとんど言ってることが分かりません。しかも大きな声ではっきり言わない。これがだから俺は非常に困ったことだと思う。俺みたいな死にかけてる人間だって声ははっきり、そして自分の言ってることが相手に分かるようにと一生懸命やってるのに、なんで今の若いやつらはそれができないのか、と僕は思うわけです。なんか変な話になりましたけど、ちょうど3時になりましたので、あと2〜3曲歌いたいという気持ちがあるけれども、あんまり歌っちゃ悪いんで、この辺で終わりにいたします。またお会いしましょう。

【司会】 やなせ先生、ありがとうございます。このあと先生は退席されます。今一度盛大な拍手をお贈りください。では今から10分間休憩します。休憩中はこちらのスクリーンで東亜同文書院の写真がたくさん映し出されます。関心のある方はぜひご覧ください。3時10分から講演会第2部を開催いたします。